

Title	加賀市オーラルヒストリー図書館プロジェクト（２） ： 吸坂館 ― ３００年の和菓子― 「加賀市立図書館 オーラルヒストリー文庫」を発刊
Author(s)	
Citation	JAIST社会イノベーション・シリーズ２， 27
Issue Date	2009-06
Type	Others
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/8218
Rights	
Description	

今後の展望

加賀市オーラルヒストリー文庫の第1号として、平成20年度「吸坂飴物語」が刊行されましたが、吸坂飴に関しては非常に多くの歴史学的研究がされており、県内には吸坂飴について体系的、継続的に研究を進めている歴史研究者がいます。今後その研究者にインタビューを行って、これまでの研究成果を平易に市民向けに解説する冊子を作成することも考えています。また現在、加賀市内で唯一、吸坂飴の製造販売を行っている方にインタビューを行い事業継承の動機や苦労されている点、今後の抱負をうかがう必要もあります。

また、加賀市立図書館オーラルヒストリー勉強会では、吸坂飴関連に限らず推薦のあった人物に対してインタビューを実施していき、オーラルヒストリー文庫の新刊発刊を目指します。現在、戦艦大和生還乗員の方へのインタビューをもとに「北緯30度22分・坊ノ岬からの生還」、合鴨農法実践農家へのインタビューをもとに「合鴨農法と憲法第九条」、ミニキネマ加賀運営者へのインタビューをもとに「ミニキネマ加賀の20年」と題した新刊の制作を進めており、JAISTのスタッフはこれに監修という立場

で協力しています。

また、インタビュー対象者と市民の交流の場を準備し、市民により地域の「生きた歴史」に親しんでいただくことも大切です。JAISTではこれまで、科学者と一般市民が飲み物を片手に同じ目線で科学を語り合う新しいシンポジウムである「サイエンスカフェ」の企画運営に取り組んでいますが、これを「図書館カフェ」として展開し、インタビュー対象者と市民がお茶を飲みながら和やかに懇談を行う場を開催することも提案しています。



図書館カフェのイメージ

地域再生人材創出拠点の形成プログラムとは

石川伝統工芸イノベータ養成ユニット事業は文部科学省・科学技術振興調整費の地域再生人材創出拠点の形成プログラムにより運営されています。同プログラムは大学の個性・特色を活かし、地域産業の活性化や地域社会のニーズの解決に向け、地元で活躍し、地域の活性化に貢献し得る人材を育成することを目的として、平成18年度に創設されました。大学が地元の自治体と連携し、科学技術を活用して地域に貢献する人材を育成する「地域の知の拠点」を形成するシステムを構築することを支援する仕組みです。

JAIST 社会イノベーション・シリーズ 2

発行 2009年6月

発行所 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学・地域・イノベーション研究センター
〒923-1292 石川県能美市旭台1-1 知識科学研究科棟Ⅱ7階

■本誌に関するご意見、お問い合わせ

TEL: 0761-51-1839 FAX: 0761-51-1767 E-mail: dento-sec@jaist.ac.jp



本誌は、文部科学省科学技術振興調整費
地域再生人材創出拠点の形成プログラムの
助成を得て発行しております。

JAIST SOCIAL INNOVATION SERIES

社会イノベーション・シリーズ 2

加賀市オーラルヒストリー図書館プロジェクト(2)

吸坂飴 -300年の和菓子-

「加賀市立図書館オーラルヒストリー文庫」を刊行

吸
坂
飴
物
語

加賀市立図書館オーラルヒストリー文庫

監修
加賀市立図書館オーラルヒストリー文庫
編集
加賀市立図書館オーラルヒストリー文庫
北陸先端科学技術大学院大学 地域・イノベーション研究センター

「加賀市立図書館を日本でトップクラスの図書館にしたい」。加賀市の大幸市長のニーズを受け、JAISTと加賀市は産学連携で、オーラルヒストリー図書館プロジェクトを進めています。加賀市は県下有数の温泉地帯として知られるとともに、九谷焼、漆器などの伝統工芸も活発です。江戸時代には大聖寺地区を中心に十萬石の城下町として発展しました。オーラルヒストリー図書館プロジェクトでは、この厚みある加賀市の歴史や文化を担う「人」が語るストーリーを収集、集約し、オンリーワンの図書館づくりを目指します。平成21年3月には、「加賀市立図書館オーラルヒストリー文庫『吸坂飴物語』」が完成しました！

加賀市立図書館を日本トップクラスの図書館に！

地域の抱える課題を大学と自治体、市民が協働して解決するため、平成18年4月、JAISTと加賀市は学官連携協定を締結しました。ここで提示された課題のひとつに、加賀市立図書館を地域の文化教育活動の拠点とするため、蔵書、イベント等の質・量を充実させ、「加賀市立図書館を日本でトップクラスの図書館にしたい」とのテーマがありました。しかし図書館の振興には予算の制約があります。蔵書数や床面積などの充実策のみでは、日本でトップクラスの図書館を実現していくことは難しいものです。そこでJAISTでは、加賀市独自の知的資産を図書館の蔵書として収蔵していくことで「オーラルヒストリー図書館」を構築し、加賀市立図書館を他に例のないオンリーワン図書館にしていこうという提案をしました。

加賀市は海と山に恵まれた景勝地であるとともに、



山中温泉鶴仙峡



片山津温泉



中谷宇吉郎・雪の科学館

平成18年度、JAISTと加賀市はオーラルヒストリー図書館設立可能性調査として、既存の公立図書館や大学図書館における先行事例を調査し、「オンリーワン図書館」作りのポイントを探るとともに、日本におけるオーラルヒストリー研究の草分けである御厨（みくりや）貴教授（東京大学先端科学技術研究センター）に協力を依頼しました。平成19年6月には御厨教授を招いて地域オーラルヒストリー創造のための啓発シンポジウムを開催しました。

平成20年7月にはいよいよ「加賀市立図書館オーラルヒストリー勉強会」が加賀市民主体で発足。地域に根ざしたかたちで、オーラルヒストリー図書館プロジェクトが本格的にスタートしています。オーラルヒストリーアーカイブの設立は国内でもほとんど例がありませんので、本プロジェクトは、非常に画期的な取り組みだと言えます。

県下有数の温泉地帯として知られ、加賀温泉郷の四つの温泉地のうち、山代温泉、片山津温泉、山中温泉が加賀市にあります。九谷焼、山中漆器などの伝統工芸も活発で、「石川県九谷焼美術館」、「九谷焼窯跡展示館」、「北前船の里資料館」、「中谷宇吉郎・雪の科学館」、「深田久弥・山の文化館」、「加賀アートギャラリー」などの文化施設が充実しています。歴史的には16世紀末以降、大聖寺地区を中心とする体制が形成され、十萬石の城下町として発展しました。大聖寺地区には今も城下町の面影が残っており、歴史ある景観を守るため、加賀市では町屋の再生にも取り組んでいます。このように加賀市には、厚みある歴史遺産、文化遺産があり、遺産の担い手である人がいます。オーラルヒストリープロジェクトはこうした「人が語る歴史」を収集し、図書館に知的資産として収蔵しようというものです。

オーラルヒストリーとは

オーラルヒストリー（Oral history）とは、口述記録の作成・編集による知的資産の一形態で、アメリカのコロンビア大学では1948年世界初のオーラルヒストリー専門研究図書館を設立しています。またハーバード大学では、オーラルヒストリーのアーカイブを政治史、外交史、文化史等の歴史研究に活用しています。日本での歴史はまだ浅く、特に地域連携に資するオーラルヒストリーアーカイブの設立は、国内でもほとんど例がありません。数少ない実例としてサントリー文化財団の支援で沖縄学オーラルヒストリー図書館の設立が進められています。また昭和30年代に立ち上げられた東京・多摩ニュータウンでは現在、中央大学の協力を得てオーラルヒストリーの作成作業が進められています。

加賀市立図書館を日本トップクラスの図書館に！

「加賀市立図書館オーラルヒストリー勉強会」は、加賀市立図書館の中谷健治館長、柏田剛明副館長、地域の文芸サークルである「文芸かが」から3名、同じく地域の歴史研究サークル「江沼地方史研究会」から3名、そしてJAISTの小林俊哉特任准教授、緒方三郎特任准教授の計10名で発足しました。同勉強会では、市民会員から推薦されたオーラルヒストリーのインタビュー候補対象者17人のうちの1人で、和菓子「吸坂飴」の製造販売に長年携わっていた辻妙子さんにインタビューを実施しました。吸坂飴は加賀市大聖寺町の南東にある吸坂地区で300年余りにわたって作り続けられてきた伝統的な飴です。原料に砂糖などの糖類は一切使わず、米と麦芽の甘みを生かした自然な甘さが特徴です。辻さんはこの飴の製造に50年間従事し、昔ながらの製法と味を守ってきました。

辻さんは後継者の問題とともに、飴作りに必要な道具を作る職人さんがもういなくなったという事情も加わって、すでに事業を廃業されています。しかし飴製造

の機器は、元の状態で保管されていたため、勉強会メンバーはインタビューとともに製造現場と製造機器類を見学して写真撮影を行うことができました。なお現在、吸坂で飴を作っている製飴所は、一軒だけとなっています。

2度のインタビューを経て平成21年3月、「加賀市立図書館オーラルヒストリー文庫」第1号となる「吸坂飴物語」が完成しました。仕様はA4サイズ6ページ、親しみやすい読み物形式となっています。「吸坂飴物語」は加賀市立図書館の玄関に配架し、無料で市民に配布する予定です。また加賀市立図書館のホームページ内でも紹介します。

こうした取り組みは、地域に根差した市民の歴史を、市民が主体になって編集し、かたちにしていくという点で、地域の中で持続可能な事業であると期待されます。JAISTでは今後も地域の自立的な取り組みをサポートするかたちで、加賀市オーラルヒストリー図書館プロジェクトに協力していきます。



辻製飴所の看板



辻さんへのインタビューの様子（2008年10月26日）



辻さんから飴製造機の説明を受ける勉強会のメンバー

LIBRARY CITY
KAGA PROJECT